



## 第30回 J A 青森県大会決議事項の着実な実践に向けて

J Aグループ青森は、第30回 J A 青森県大会（令和6年12月5日開催）において、「今こそ結集！協同の力 ～青森の農業と地域のくらしを守るために～」をスローガンとして掲げ、令和7年度から令和9年度までの向こう3力年のめざすべき方向を確認し、意思結集を図りました。

その中では、第29回 J A 青森県大会決議事項を踏襲するとともに、今日の農業・J Aを取り巻く課題を認識し、「食料・農業基盤の確立と担い手支援」、「農政活動の強化と豊かなくらしの実現」、「組織・経営基盤の強化」、「農業・J Aに対する理解・共感の醸成」の4つを重点目標（重点取組事項）として取組んでいくこととしました。

### 【4つの重点目標の関連性】

#### 1. 土台となる2つの重点目標

1つ目の重点目標は、農業経営の持続的確保のため、農家組合員の所得向上への取組み、農業人口の減少により急務とされる担い手の確保・育成、また、農業労働力確保や多様な経営体への支援を核とする「食料・農業基盤の確立と担い手支援」です。

また、これらを実現するための農業政策確立に向けた運動や農政活動学習会の実施、さらには、組合員の豊かなくらしを目指した活動、食農教育や地域社会活性化に向けた取組みを核とする「農政活動の強化と豊かなくらしの実現」が2つ目の重点目標となります。

この2つは、4つの重点目標の中でも土台となる中心的な目標であり、組合員の営農や生活を守るとともに、J Aが地域において社会的役割を果たしていくため、着実な実践が求められます。

#### 2. 土台となる取組みを着実に進めるための重点目標

J Aグループ青森が、組合員の営農や生活を守り、地域において社会的役割を果たしていくためには、組合員との信頼関係を深めていくことはもとより、地域との信頼関係を深めることでJ Aのファンを増やし、J A自体を活性化させることが必要です。

そのため、組合員との関係強化を図るとともに、女性・青年をはじめとする多様な農業者に対し参画を進める、また、准組合員がJ Aに望むことを実現させるため、その意思反映の取組みが必要となります。

このようなJ AおよびJ Aを取り巻く組織との関係強化を図るためには、何よりも組合員・地域との対話が必要であり、日々の対話をはじめ、巡回活動等による接点の創出、強化が非常に重要となります。

一方、J A自体の経営基盤の強化も必要です。近年のJ A経営を見ますと、販売単価に伸長は見られるものの、農産物集荷数量の減少や他事業に大きな伸びが見られず、依然として管理費の圧縮に依拠せざるを得ない状況が続いています。そのため、実効性のある経営計画の策定とともに実効性のあるPDCAサイクルを実践する必要があります。

また、組合員から信頼される組織・事業運営を実践するために、ガバナンスや内部統制を強化する必要があります。

あわせて、離職・採用難の時代であることを踏まえると、「働きやすく支えあう職場づくり」や「J A経営を支える人づくり」を中心とした職員の確保・育成が不可欠となっています。

そのため、土台となる2つの重点目標の達成に向け、3つ目の重点目標では、「組織・経営基盤の強化」を掲げ、実践することが求められます。

#### 3. 3つの重点目標の実践をJ Aグループ内外へ発信

食料、農業、国産農畜産物の重要性や、本県の食料生産に大きくかかわるJ Aの社会的役割等の理解醸成を深める活動に取組むとともに、戦略的な広報活動により、J Aグループ内外に積極的に情報発信する必要があります。

そのため、4つ目の重点目標として、「農業・J Aに対する理解・共感の醸成」を掲げ、3つの重点目標の実践状況をJ Aグループ内外へ発信するほか、「国消国産J Aグループ統一運動」を通じて、農業に関する国民理解の醸成を図るとともに、消費者の行動変容や再生産可能な適正価格形成の実現につながる広報活動に取組む必要があります。

また、食・農・地域を支えるJ Aグループの役割や存在意義について情報発信する等、J Aグループのファンづくりに取組む必要があります。

### 【大会決議実践2年度目として】

大会決議実践2年度目として、引き続き、J Aグループ青森が一丸となって取組みを加速させていく必要があります。

本会としても、大会決議事項を基本とした「第8次中央会機能・体制等基本計画（令和7年度～9年度）」の中で、3力年の行動計画を策定し、実践しております。令和8年度は、昨年度の進捗状況を踏まえ、組合員や地域住民に支持されるJ Aグループ青森であり続けるため、また、協同組合としての社会的役割を果たすため、J Aとともに重点取組事項を着実に実践してまいります。

J A 青森中央会

# フラッシュ

## JA青森



### JAグループ全国農産物鑑定会 成績優秀者表彰式 (3/25)

当JA本店で、全国JA農産物検査協議会主催の第20回JAグループ全国農産物鑑定会表彰式が行われた。鑑定会は2月、千葉県の子JA共済幕張研修センターで開催され、33都道府県から73名の農産物検査員が参加し、水稲玄米の等級鑑定が行われ、中央営農センターの西塚博文係長が、全問正解満点で最優秀賞の栄光に輝いた。表彰後に西塚係長は「今後の業務に活かして正しく検査業務をやっていききたい」と語った。

メロン苗5万本供給へ 鉢上げ始まる (3/17)  
 当JAは、五所川原市の育苗施設で、メロン苗の鉢上げ作業を始めた。この日運び込まれた苗は病害に強い台木に接ぎ木した「タカミ」約1,500本。ハウス内は25度前後に保たれ、温度や水分を細かく管理しながら健全な苗づくりを進める。  
 担当者は「生産者が安心して栽培できるように、状態の良い苗を届けたい」と話した。



## JAごしよつがる

## JAつがる弘前



### 女性部冬期サークル「津軽塗研ぎ出し体験」(3/10)

女性部は、弘前市にある当JA総合物流センター会議室で、冬期サークル「津軽塗研ぎ出し体験」を行った。講師に、いとう漆工場の伊藤安子氏を迎え、津軽塗の模様を浮かび上がらせる「研ぎ出し」の工程を体験した。木製スプーンの持ち手部分に塗り重ねられた漆を、水をつけた目の細かいやすりで研磨。作業が進むにつれ模様が現れると、部員からは「おもしろい」などの声が上がった。

### 共防連幹部職員研修会を開催 (2/16)

相馬村農協共防連は、弘前プラザホテルで幹部職員研修会を開催した。研修会では、JA全農あおもり肥料農業推進課の工藤永真氏が「日本と海外における農業情勢」について講演し、令和8年度の防除について参加者全員で考えた。

成田陽平会長は「雪害や鳥獣害など様々な問題があるが、一致団結して取り組むたい。コンフェューザーRを設置し、農業に関しても新しい情報を迅速にキャッチして対応していきたい」と述べた。

## JA相馬村



## JAつがるにしきた



### 冬の手仕事で深まる絆

#### 女性部鶴翔支部が教室開催 (2/24)

当JA女性部鶴翔支部は、12月下旬から2月下旬にかけてパッチワーク教室やクラフトテープ教室を開き、約20人が参加した。参加者はそれぞれ手作りのバッグやタペストリーなどを2品ずつ制作した。完成した作品は、3月に開催される総会で他支部の会員にも披露される。副支部長の秋庭礼子さんは「冬場に家にこもるより、外に出て部員と交流する方が楽しい。作品が完成したときの喜びも大きく、部員数も年々増えている」と笑顔で話した。



JA津軽みらい

豪雪による被害状況を確認 (3/17)

当JAは、雪によるリンゴ園地の被害状況を確認するための巡回を行った。1月に豪雪対策本部を本店に設置しており、今回の巡回は被害状況などを把握し、雪害に対する支援策を講じることが目的。

この日は常勤役員と営農課の職員が、黒石地区を中心に被害があった管内の園地を巡回。雪の重みによる枝折れや、幹が裂ける被害が多く見られた。奈良寧組合長は「今後も被害調査を行い、生産者が安心して農業を続けられるよう支援の充実を進めていく」と話した。



JAゆうき青森

彼岸団子づくり (3/13)

当JA女性部らくのう支部は、らくのう営農センターで、春彼岸向けの団子づくり教室を開催した。

ヨモギ団子と白だんごの2種類を作り、生地をより柔らかく仕上げるため、小麦粉も練りこんだ。大きめのボウルで材料をこね合わせる作業では、固くなったり柔らかくなりすぎたりする場面もあったが、お互いにアドバイスをしながら合計400個の団子を完成させた。

部員らは「家で1人で作るのは気が遠くなる作業だが、仲間と一緒に進むとあっという間に完成できて楽しい」と笑顔で語った。

想いつなぐ「ももいしいちご」(3/9)

当JAのももいし支店管内では、今年も生食用イチゴ「ももいしいちご」の出荷が始まった。当地のイチゴは鮮やかな紅色と甘さが特長。東日本大震災による津波や高齢化などにより生産者は年々減少傾向にあるが、地域で紡いできたブランドイチゴを守ろうと生産者は管理出荷に励んでいる。イチゴ栽培50年目を迎える川口勝子さんは「想い入れのある「ももいしいちご」は私の一部。再建を断念した人たちの分まで、できる限り作り続けたい」と想いを語る。



JA十和田おいらせ



JAおいらせ

本店 年金友の会 通常総会を開催 (2/14)

本店年金友の会は、きざん三沢で「特殊詐欺被害に遭わないために」と題して講演会を開催した。講師に三沢警察署の担当者を招き、実際に発生している特殊詐欺の手口やその対策について、具体例を交えながら分かりやすい説明がされた。会員は真剣な表情で耳を傾けていた。

ながいも栽培講習会を開催 (3/3)

ながいも専門部は、管内4ヶ所でながいも栽培講習会を開催した。このうち、五戸町のJA五戸営農センターで行った講習会には、17人が参加した。

講師に県三八農林水産事務所農業普及振興室の木下貴之主幹を招き、令和7年産の作柄と気象経過を振り返りつつ、これからの春掘り作業、種芋の選別や植付け時期などについて説明を受けた。また、五戸営農センターの荻沢一雄係長は参加者へ、加工品も含めた全量の農協出荷をお願いした。



JA八戸

Moving Forward

各連合会の取組みを紹介します

## 中央会機能（令和7～9年度） の基本方向

### 重点実施事項

第30回 J A青森県大会において、“今こそ終結！協同の力”を主題に、4つの重点目標（「食料・農業基盤の確立と担い手支援」「農政活動の強化と豊かなくらしの実現」「組織・経営基盤の強化」「農業・J Aに対する理解・共感の醸成」）を掲げ、取組むことを決議しております。本会は、J Aグループ青森が掲げた重点目標の達成に向け、次の重点実施事項に取組んでまいります。

#### 重点実施事項1

##### 食料・農業基盤の確立と担い手支援

- (1) 担い手支援と農業労働力確保支援
- (2) 農業所得・生産性向上支援
- (3) 地域農業の振興とJ Aの総合事業提案

次世代の担い手の確保や多様な農業者への支援、環境へ配慮した農業の推進により農業生産基盤を支え、総合事業を通じて、J Aグループ青森が一体となって「農業所得の増大」および「安全・安心な国産農畜産物の安定供給」を実現することで、食料安全保障に貢献します。

#### 重点実施事項2

##### 農政活動の強化と豊かなくらしの実現

- (1) 農政活動の強化
- (2) 豊かなくらしの実現と地域社会の活性化

農業政策による支援が、農業者所得向上、ひいてはJ A、連合会の経営の安定化に重要との認識のもと、農政活動の強化に取組みます。

また、活動や事業を通じて、組合員や地域住民等のニーズに応じたくらしの活動を展開するとともに、行政や諸団体等との連携を通じ、豊かなくらしの実現に取組みます。

#### 重点実施事項3

##### 組織・経営基盤の強化

- (1) 組織基盤の強化対策
- (2) 持続可能なJ A経営基盤の確立・強化
- (3) 組合員から信頼される組織・事業運営の実践
- (4) J Aグループ青森における組織再編の検討
- (5) J A事業運営を担う職員の確保・育成

「食料・農業・担い手支援」「農業・農村発展と豊かなくらしの実現」を支えるとともに、組織基盤・経営基盤等の強化に取組みます。

#### 重点実施事項4

##### 農業・J Aに対する理解・共感の醸成

- (1) 情報発信による農業・J Aグループに対する理解醸成
- (2) 組織内広報による役職員・組合員の理解促進
- (3) 戦略的な情報発信に向けた広報戦略の確立

食料、農業、国産農畜産物の重要性や、本県の食料生産に大きくかかわるJ Aの社会的役割等の理解醸成を深める活動に取組むとともに、戦略的な広報活動により、J Aグループ内外に積極的に情報発信を行います。

J A青森中央会は、J Aグループ青森の結集軸としての機能（代表、総合調整、経営相談）を果たし、引続き、組合員・J Aの声と要望に応える取組みをより一層進めてまいります！



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

## 東野秀樹参議院議員と青年部・女性部との意見交換会

JA青森中央会と県農協農政対策委員会は2月28日、県農協会館で「東野秀樹参議院議員と青年部・女性部との意見交換会」を開催した。県JA女性組織協議会、県農協青年部協議会の役員ら16人が参加した。参議院議員の東野秀樹氏は冒頭で「議員となり約7カ月となる。農政の課題解決を全力で進めているが、生煮えの議論もある。現場の声を取り入れ、政策に反映していきたい。たくさん意見を伺いたい」とあいさつした。

意見交換会では米価の問題、食農教育の必要性、消費税、豪雪被害、鳥獣被害対策など幅広いテーマで話し合った。予定の時間を越えてしまったが、東野議員は同青年部員、女性部員の意見や質問に丁寧に答えていた。

県青協の斗沢正和委員長は「東野議員の政治活動において一丁目一番地はなにか」という質問に対し「まず、4月から始まる食料システム法について精査する。農業の現場が頑張った分を評価してもらっては値段だと考えている。農業者も納得できるコスト指標を考えていきたい」と力強く述べた。



▲斗沢委員長の質問を受ける東野議員

## 農政学習会を開催

JA青森中央会と県農協農政対策委員会は2月28日、県農協会館で「農政学習会」を開催した。農業経営の安定化と持続的な発展のため、農業政策を含めた政治の動向について学び、今後の協議・検討に役立てることが目的。県内JA、連合会の役職員やJA女性部・青年部ら約170人が参加した。

同学習会では「農政をめぐる情勢について」と題し、東野秀樹参議院議員が国政報告を行った。東野議員は「食料安全保障について予算や水田政策など国の農業を守るため集中的に議論をしている。また、食料システム法については議論が足りていないと感じる。農家が再生産できる価格を指

指して全力で取り組む。食育にも力を入れていきたい。食べ物の栄養価の話だけではなく、各地方の特産品や生産から出荷までの流れを教育に盛り込んでいきたい」と力説した。質疑応答では消費税や備蓄米、農業政策の方向性などの意見や質問を受け、丁寧に回答していた。

また「総選挙後の政局と農政のゆくえ」と題し、政治評論家の小林吉弥氏が講演を行った。現在の政治の動向や小林氏が考える今後の予測、外交問題、与党と野党のバランスなどに対し持論を述べたほか、人口の減少や都市の一極集中化、地方創生の課題など農政に関わる内容にも触れた。



▲国政報告をする東野議員

## JA常勤役員情報交換会を開催

県JA協議会は3月2日、県農協会館で「JA常勤役員情報交換会」を開催した。人手不足や後継者の減少、高齢化の現状を踏まえ、どのように農業所得向上に向き合うべきかを学ぶことが目的。県内JA、連合会から役職員ら約70人が参加した。

帝京大学経済学部地域経済学科の玉真之介教授を講師に招き「日本農業の歩みとそれを踏まえ今後何をすべきか」について講演した。日本型総合農協が確立するまでの歴史と、JAが担う社会的機能、適切な価格転嫁を含めた市場機能について説明し「消費者が求める価値・サービス提供の重要性」と「日本農業の多様性」を訴えた。玉教授は「地域の持続にはJAが必要不可欠である。歴史や伝統を守りつつもデジタルトランスフォーメーション(DX)や人工知能(AI)、交流サイト(SNS)などデジタルを積極的に活用し、農畜産物などをアピールすることで、消費者の『押し活』の対象となるJAを目指してほしい」と力強く述べた。また、玉教授が弘前大学農学部で教鞭をとっていた経験を活かし、青森県の伝統行事や方言など、付加価値を増す財産がたくさんあることもアドバイスした。

さらに、JA青森中央会の野呂文人常務より「持続可能なJA基盤の確立・強化のためのリスク管

理態勢の構築」と題した研修が行われた。ＪＡ合併をめぐる全国の情勢や、青森県ＪＡの経営概況を基に「ＪＡグループ青森組織再編構想」について説明。各ＪＡに対して実施した意向調査、基礎調査の結果を受け、今後協議していくことを伝えた。「ＪＡ内部統制・リスク管理強化にかかる取組み」についても、経営管理、ガバナンスを強化することで持続可能な経営基盤を構築できる要因になると述べた。



▲講演をする玉教授

### 2025国際協同組合年青森県実行委員会解散

2025国際協同組合年（IYC2025）に合わせて設立された「2025国際協同組合年青森県実行委員会」は、予定していた活動内容を完了したことから活動終了、解散した。

同委員会は3月2日、県農協会館で「2025国際協同組合年第4回青森県実行委員会」を開催。県内の協同組合5団体合わせて9人が参加した。本会議では同委員会の解散と2026年度以降も「協同組合間提携青森県実行委員会」として事業を継続する事を決めた。

同委員会は、国連が定めた国際協同組合年を契機に協同組合の理念や役割を県民に広く発信すること、各団体間の連携強化を図ることを目的に設立された。年間を通じ協同組合が担う人材育成や、持続可能な開発目標（SDGs）対応事業への支援のほか、青森県知事への要請、記念集会の開催などを行った。広報面では県内向けPRパンフレットを作成し、イベントなどで配布。協同組合の取組みや歴史、地域で果たしている役割を分



▲あいさつをする中央会農業対策部の秋田部長

かりやすく紹介し、周知活動を進めた。

今後は国連が発表した10年ごとに国際協同組合年を設ける方針を踏まえ、協同組合間での施設見学会や合同研修会を各団体持ち回りで実施するほか、各団体のイベントに積極的に参加し連携を継続する。

### 県青協で「農作業事故体験VR研修会」を開催

県農協青年部協議会は3月13日、県農協会館で、農作業事故防止のための「農作業事故体験VR研修会」を開催した。県内の青年部員、事務局員ら28人が参加した。

本研修会は農作業の安全について考えることを目的に、仮想現実（VR）を利用し農作業事故を疑似体験する。青年部としては全国初の取組みである。

VR動画は、トラクターの横転やコンバインに巻き込まれる事故、スピードプレーヤーに挟まれる事故などが収録されている。360度の視界で体験するもので、どのような点が危険なのか改めて認識することができる。

また、研修ではＪＡ共済が作成した日本の農業事故の現状や事故が発生する仕組みを伝える動画と、ＪＡオホーツク網走青年部が取組んでいる農作業事故防止啓発活動の動画を視聴。併せて県青協が作成した「指差しステッカー」を紹介した。

県青協の斗沢正和委員長は「農作業には危険がつきもの。他人事ではなく、事故に巻き込まれたら今後の一生に関わってしまう。今日学んだこと



▲VRを体験する参加者



▲指差しステッカーを紹介する斗沢委員長

をJAや盟友、家族に伝えてほしい」と述べた。  
県青協では、今後も事故防止や啓発のため勉強会を積極的に開催する。

### 青森県JA女性部長・支部長・事務局合同会議&研修会開催

県JA女性組織協議会は3月17日、県農協会館で「青森県JA女性部長・支部長・事務局合同会議」を開催した。県内の女性部員ら約70人が参加した。

同協議会の松橋久美子会長は「今回も協議事項は多々ある。次年度の活動を円滑に進めるため、胸の内にある想いや意見をぜひ話してほしい」とあいさつした。

合同会議では令和8年度活動計画や同協議会会費の引き上げなどについて協議。質疑応答もありつつ、全て承認された。

会議後には研修会も開催。JA十和田おいらせの子会社である「株式会社協同サービス」を講師に招き、天然石を用いたブレスレット作りを行った。

講師は天然石に込められた意味や長く利用するための手入れの方法などを紹介。

参加者は12種類の天然石から自分の好みを選び、作業を開始。作業は糸ゴムに天然石を通す流れであるが、天然石の配色、見え方で何度も調整を繰り返した。参加者は「試しに腕に巻いてみると思っていたイメージと違い何回も取り外した。綺麗にできたので、長く使いたい」と完成品を手話した。



▲ブレスレットを作る参加者

### JA教材本贈呈式を実施

JA青森中央会とJAバンク青森は3月24日、青森県庁でJA教材本贈呈式を行った。贈呈式では中央会の野呂文人常務と農林中金青森支店の桐原豊彦支店長が青森県教育庁学校教育課の下山敦史課長に教材本を贈呈した。

教材本は2種類。どちらも小学校5年生と特別支援学校小学部5年生向けで、2026年度版に改訂されたものである。青森県の将来を担う子どもたちに、基幹産業である農林水産業や食の大切さを理解してもらう事が目的で、社会科や総合的な学

習の時間などでの使用が想定されている。

中央会からは「いのちはぐくむ あおもりの農林水産業」を贈呈。平成4年から発行を継続しており、青森県の自然や地形、食事の説明をはじめ、青森県で生産されている農畜産物などの生産量や生産方法、各地方の特産物紹介が盛り込まれている。編集にあたっては県内小学校の教員にも協力をいただき、より小学生にわかりやすい教材本に仕上がった。

JAバンク青森からは「農業とわたしたちの暮らし」を贈呈。こちらは日本の農業や農産物の流通、食事について盛り込まれている。書き込むスペースをたくさん設け、ワークシートとしても活用できるのが特徴だ。

贈呈にあたり、中央会の野呂常務は「今後も教材本などを通じて、農林水産業への理解促進と食育活動に取り組んでいきたい」とあいさつ。受け取った県学校教育課の下山課長は「教科書だけではわからない青森県の一次産業の理解を深めるために最適な教材だと思う。地域の農業などへのふれあい活動の事前学習にも大変役立つ」とお礼の言葉を述べた。



▲下山課長（中央）に教材本を贈呈した野呂常務（左）と桐原支店長（右）

### 行事（4/10～5/10）

#### 4月

- 10日 定例理事会（県農協会館）
- 14～15日 令和8年度新採用職員研修会（県農協会館）
- 15日 県参協定例会（県農協会館）
- 16日 営農指導員資格認証指定研修会【栽培】（県農協会館）
- 17日 令和8年度家の光三誌・日本農業新聞キックオフ大会、JAトップセミナー（アップルパレス青森）
- 21日 営農指導初任者研修会（県農協会館）
- 24日 県JA女性組織協議会第72回通常総会（県農協会館）
- 24日 県下JA女性部長・支部長・事務局合同会議（県農協会館）

# 令和8年度 JA青森中央会配置図（令和8年4月1日付）

|        |         |
|--------|---------|
| 代表理事会長 | 乙 部 輝 雄 |
| 副会長理事  | 天 内 正 博 |
| 常務理事   | 野 呂 文 人 |

| 総務企画部 |   |
|-------|---|
| 部長    | 阿 保 潤 司   |
| 次長    | 渡 辺 信 義（総務課長兼務）<br>石 田 麻 揮（派遣）                                      |
| 総務課   | 企画管理課   |
| 課長    | 渡 辺 信 義   |
| 調査役   | 工 藤 聖 子   |
| 調査役   | 長 内 克 文（全共連県本部より出向）<br>工 藤 里 佳（全農県本部より出向）<br>安 部 はるか<br>伊 藤 一 成（嘱託） |
|       | 課長 工 藤 咲 美<br>副調査役 山 内 麻衣子<br>小 原 双 葉                               |

| 農業対策部 |   |
|-------|---|
| 部長    | 秋 田 弘 行   |
| 次長    | 澁 谷 亮<br>山 田 真佐子（嘱託）  |
| 農業支援課 | 組織農政課   |
| 課長    | 棟 方 涉   |
| 副審議役  | 相 馬 崇 志   |
| 考査役   | 須 藤 雅 樹（全農県本部より出向）<br>田 村 恵太郎<br>石 田 裕太郎<br>藤 木 優 衣<br>張 間 万 桜（新採用）                       |
|       | 課長 佐 藤 悠<br>副調査役 進 藤 太 一<br>林 和 也<br>工 藤 花 林<br>横 山 達 哉<br>山 田 久 雄（再雇用・嘱託）<br>尾 崎 新 子（派遣） |

| 経営対策部 |   |
|-------|---|
| 部長    | 山 田 潤   |
| 次長    | 新 谷 優（津軽地区JA担当）                                     |
| 次長    | 一 戸 和 雄（組織再編構想担当兼県南地区JA担当）                          |
| 次長    | 西 村 健（経営企画課長兼務）<br>高 野 航 希（組織再編構想担当）<br>若 松 哉 子（派遣） |
| 経営企画課 | 教育研修課   |
| 課長    | 西 村 健   |
| 副調査役  | 古 川 智 丈<br>工 藤 有 香<br>野 井 麻由香<br>高 田 真 琴（新採用）       |
|       | 課長 木 村 友 子<br>土 岐 禎 渡<br>蒔 苗 文 彦（再雇用・嘱託）            |

（総務企画部付出向）

| 青森県農協会館管理委員会    | みのり監査法人  |
|-----------------|--|
| 小 島 睦 男（再雇用・嘱託） | 専任審議役 田 村 幸 一<br>専任考査役 平 田 佑 介<br>専任調査役 木 村 稔 喜<br>小 堀 晃 生<br>田 中 良 太<br>松 澤 秀 治（再雇用・嘱託） |

## JAカードは特典が盛りだくさん！ ご入会とご利用でポイントをゲットしよう!!

JAバンク青森では、JAカード新規入会特典としてショッピングご利用で最大12,000円相当のポイントがもらえるほか、すでにJAカードをお持ちのお客さまも、直売所やJA・SSでの割引、JAグループの店舗でのポイント還元率増加など、JAカードならではの様々な特典が受けられます。

JAカードご利用特典は次のとおり。

### 【特典①：ご入会サクスプレゼント】

JAカード入会日（カード発行日）から3か月後末日までのショッピングご利用合計額に応じて、20,000円ご利用ごとに3,000円相当、最大で12,000円相当のポイントをプレゼント。

新規に入会した本人カード、家族カードが対象で、カードごとに応募登録（WEB会員サービス「Net Branch」からエントリー）が必要。

| ショッピングご利用合計額  | プレゼントポイント数           |
|---------------|----------------------|
| 2万円以上（～4万円未満） | 750ポイント（3,000円相当）    |
| 4万円以上（～6万円未満） | 1,500ポイント（6,000円相当）  |
| 6万円以上（～8万円未満） | 2,250ポイント（9,000円相当）  |
| 8万円以上         | 3,000ポイント（12,000円相当） |

※特典の相当金額はポイント交換でキャッシュバックをご選択された場合の金額（1ポイントを4円換算で交換）を記載しています。

### 【特典②：携帯電話利用料金のお支払いでポイントプレゼント】

携帯電話料金の決済を新たにJAカードで行った会員（本人カード、家族カードとも対象。新規・既存は問いません。）に対して、250ポイント（1,000円相当）をプレゼント。

応募登録は不要で、携帯電話料金の決済が確認できれば自動的にポイントが付与される。

※対象となる携帯電話利用料金は「NTTドコモ」「au」「ソフトバンク」「ワイモバイル」です。

### 【特典③：JAカードのご利用でいつもお得】

- ✓ JA直売所・ファーマーズマーケットでJAカードをご利用いただくと、ご請求時にご利用金額の5%を割引。
  - ✓ JA-SSでJAカードをご利用いただくと、ご請求時に1ℓにつき2円割引。
  - ✓ JA直売所・ファーマーズマーケット・JA-SSを除いたJAグループの店舗（Aコープ・JAタウンなど）でJAカードをご利用いただくと、通常ポイントにくわえてご利用金額の2%相当金額をポイントで還元。
- ※一部対象外の店舗・施設や商品・サービスがあります。

新規ご入会者にとっても、既にご利用いただいている方にとってもますますお得になったJAカードを是非ご利用を。詳しくはお近くのJA窓口まで。

## 2025年度 担い手コンサルティング報告会を開催

農林中央金庫青森支店は、3月13日に担い手コンサルティング報告会を実施した。9JA、JA青森中央会、JA全農あおもりから実出席で計30名が参加。本報告会は2025年度に各JAで実施した担い手コンサルティングの取組み内容を報告するとともに、農林中央金庫が実施したコンサルティング事例についての共有を行ったもの。

各JAが実際に担い手経営体に提示した資料をもとに、どのように担い手の課題を特定し、ソリューションを提案していったかなどを説明。各担い手のニーズに応じた提案の実施を共有することで、引き続き総合事業としての強みを発揮し、担い手経営体や中核的担い手とのつながり強化を目指す。



▲報告会の様子

## 令和8年度 農林中央金庫青森支店配置図 (令和8年4月1日付)

|                      |  |                                |   |    |   |                      |  |    |  |
|----------------------|--|--------------------------------|---|----|---|----------------------|--|----|--|
| 支店長 坂本 賢修            |  | 副支店長 村田 裕之                     |   |    |   |                      |  |    |  |
| コーポレートサービス班          |  |                                | 担い手金融班  |    | 営業班   |                      |  |    |  |
| 総務<br>(017-762-4400) |  | 窓口・系統決済<br>(017-762-4407、4409) | (017-762-4402)  |    | フロント<br>(017-762-4404)  | 事務<br>(017-762-4403) |  |    |  |
| 次長                   | 葛西 智恵美<br>鹿内 之<br>粟谷 秋博<br>藤原 雪乃<br>佐々木 桃子 | 次長                             | 葛西 智恵美<br>鹿島 美奈<br>新谷 則子<br>木村 亜子<br>猿賀 香澄<br>葛西 瑠子<br>奈良崎 玲子<br>竹内 壮太郎<br>三上 愛莉<br>三浦 葉歩<br>今 香織 | 次長 | 鶴賀 学<br>小倉 庸幸<br>鳴海 修吾<br>小浜 雅史<br>工藤 健斗<br>三上 賛<br>伊東 愛生<br>和田 翔平<br>大水 秀之 | 次長                   | 柳原 謙一<br>上北田 春紀<br>船橋 佳於<br>貴田 航一朗<br>柳川 由幸<br>石郷岡 隆馬<br>戎 真由香 | 次長 | 相馬 晶子<br>對馬 萌<br>山本 美弥子<br>山崎 飛鳥<br>夏目 麻依子 |

|                             |  |                              |  |                            |  |    |   |
|-----------------------------|--|------------------------------|--|----------------------------|--|----|---|
| 副支店長 太田 康佳                  |  |                              |  |                            |  |    |   |
| J Aバンク総括班<br>(017-762-4410) |  | J Aリテール企画班<br>(017-762-4415) |  | J A指導相談班<br>(017-762-4417) |  |    |   |
| 次長                          | 羽田 佳人<br>滝田 浩史<br>須藤 明日香<br>木村 直登<br>野上 賀生<br>佐々木 優惟<br>鈴木 学 | 次長                           | 福島 毅之<br>吉川 雅也<br>鷲尾 祐輔<br>建部 春花<br>山下 桃花<br>黒澤 健悟 | 次長                         | 山口 将治<br>渋谷 拓治<br>竹内 健次郎<br>對馬 武<br>木村 史勇留<br>福士 かれん | 次長 | 中澤 京義<br>最上 静<br>木下 春彦<br>簡野 弘毅<br>有本 翔<br>高桑 一樹<br>新田 佳子<br>木村 真喜子 |

## 令和8年度 株式会社青森県農協電算センター配置図 (令和8年4月1日付)

|                       |        |                            |        |      |                         |      |        |
|-----------------------|--------|----------------------------|--------|------|-------------------------|------|--------|
| 取締役センター長 鎌田 政行        |        | 副センター長 工藤 憲明               |        |      |                         |      |        |
| 総務部<br>(017-729-8460) |        | 業務部<br>(017-729-8540、8735) |        |      | 管理経済部<br>(017-729-8500) |      |        |
| 部長                    | 長内 一興  | 部長                         | 工藤 憲明  | 部長   | 濱中 大介                   | 部長代理 | 入井 俊弘  |
| 部長代理                  | 菅原 広大  | 部長代理                       | 小川 奨   | 部長代理 | 関 洋幸                    | 主任   | 諏訪 智徳  |
| 主任                    | 今 薫    | 主任                         | 中野渡 郁子 | 主任   | 齋藤 紀文                   | 主任   | 木戸 真次  |
|                       | 藤原 まりの | 主任                         | 佐藤 全孝  | 主任   | 齋藤 紀文                   | 主任   | 小田桐 紗織 |
|                       |        |                            | 清野 恵祐  | 主任   | 齋藤 紀文                   | 主任   | 木村 尚也  |
|                       |        |                            | 小鷹 悠輔  | 調査役  | 木戸 真次                   | 主任   | 古川 学   |
|                       |        |                            | 高橋 慶至  | 調査役  | 小田桐 紗織                  | 主任   | 佐藤 優樹  |
|                       |        |                            | 天内 優晴  | 調査役  | 木村 尚也                   | 主任   | 佐々木 志晟 |
|                       |        |                            | 蝦名 勇斗  | 調査役  | 古川 学                    | 主任   | 佐々木 将  |
|                       |        |                            | 畑山 順彦  | 調査役  | 古川 学                    | 主任   | 岡田 圭祐  |
|                       |        |                            | 新宅 博寿  | 調査役  | 古川 学                    | 主任   | 高田 海   |
|                       |        |                            | 天内 賢司  | 調査役  | 古川 学                    | 主任   | 太田 孝則  |
|                       |        |                            | 田村 みなみ | 調査役  | 古川 学                    | 主任   | 長内 侑也  |
|                       |        |                            |        | 調査役  | 古川 学                    | 主任   | 柴谷 晨陽  |

### 行事 (4/10~5/10)

|        |                            |          |                   |
|--------|----------------------------|----------|-------------------|
| 農林中央金庫 |                            | 農協電算センター |                   |
| 4月     |                            | 4月       |                   |
| 16日    | J Aバンク青森運営協議会専門委員会 (県農協会館) | 10日      | 臨時取締役会 (県農協会館)    |
|        |                            | 14~28日   | 窓口端末機操作研修 (県農協会館) |

## JA産地振興・担い手支援実践青森県大会の開催

JA青森中央会とJA全農あおもりは3月5日、青森市の県農協会館で「令和7年度JA産地振興・担い手支援実践青森県大会」を共催で開き、県内JAから営農指導員ら50人が参加した。これは各JAの実践事例の共有で、更なる生産者の所得向上や農業生産の拡大を図ることが目的。

本大会は、令和9年3月、東京で開催予定の「JA産地振興・担い手支援実践全国大会」に向けた県代表の選考会を兼ねたもの。部会組織の強化による産地振興や新たな栽培技術の導入により、生産者の所得を向上させた事例など、各JAの取り組み7事例が発表された。

最優秀賞に選ばれたのは、JA十和田おいらせむつグリーンセンターの佐藤努課長補佐による「下北地域におけるピーマンの産地化について」と題した取り組み。同JAが抱える夏秋野菜の生産者・取扱量・販売額減少の改善策として、ピーマンの栽培拡大に焦点を当てたもの。生産者個人ごとに通信簿を作成することや、栽培マニュアルの整備、技術研修の定期化などに取り組み、開始から3年目で栽培者数、面積、数量の増加など結果が出ている。

全農あおもり営農部の長内敏也部長は「各JAにおける日頃の取り組みを共有し、発表事例を参考として、生産者の所得向上や生産振興のさらなる推進に役立ててほしい」と話した。

大会では、秋田なまはげ農業協同組合担い手支援室の松田久樹室長より「少数精鋭で挑む、持続可能な農業のための担い手支援」と題した講演も行われ、より高度化、多様化する担い手ニーズに対応した取り組みについて知識を深めた。



▲最優秀賞の表彰を受ける佐藤さん

## 鹿児島フェア in青森の開催

JA全農あおもりは3月7日、8日の2日間、青森市の青森県観光物産館アスパムで、JA鹿児島県経済連とのコラボイベント「鹿児島フェア in 青森」を開催し大勢の来場客で賑わった。

約60点の鹿児島県産農畜産物・加工品を販売したほか、青森県産農産物も販売し、双方特産品の認知度向上および消費拡大を促した。

オープニングセレモニーにはJA鹿児島県経済連から柚木弘文会長・岩元興一常務理事の2名、JA全農あおもりからは乙部輝雄会長・成田具洋県本部長の2名が登壇した。柚木会長は「青森県と鹿児島県がもつ自慢の農畜産物を多くの皆様にご賞味いただきたい。今後もたくさんのイベントを企画していきたい。」と話した。

7日は、リンゴミュージック所属のジョナゴールドさんによるトークショーとミニライブを実施。

また8日は、同じくリンゴミュージック所属のライスボールによるトークショーとミニライブで会場を盛り上げた。

購入客からは「黒豚やミカンを食べるのが楽しみ」「焼き芋がおいしかった」と声があった。今回でコラボは9回目。令和7年12月に鹿児島市内で青森フェアを開催している。



▲セレモニーに参加する両県代表者ら（右から成田県本部長・乙部会長・柚木会長・岩元常務理事）

### 行事（4/10～5/10）

4月  
10日 運営委員会（県農協会館）

# 令和8年度 職員配置一覽

|      |        |
|------|--------|
| 原本部長 | 笹森 俊 充 |
| 副本部長 | 長 内 暁  |
| 副本部長 | 坂 本 浩  |

## 管 理 部

|            |         |            |
|------------|---------|------------|
| 部 長        | 今 本 和 寿 |            |
| 次 長        | 佐 藤 貴 洋 |            |
| 企画管理課      | 課 長     | 佐々木 勉      |
|            | 課長代理    | 飯 田 裕 樹    |
|            |         | 土 岐 鈴 夏    |
|            | 嘱 託     | 前 田 千 賀 子  |
|            | 臨 時     | 伊 藤 達 也    |
|            | 臨時(短期)  | 久保田 裕 子    |
| コンプライアンス課  | 課 長     | (佐藤次長事務取扱) |
|            | 課長代理    | 石 山 伸 吾    |
| 総務人事課      | 課 長     | 鹿 内 昭 智    |
|            | 課長代理    | 三 上 功 多    |
|            |         | 山 形 麻 美    |
|            |         | 高 橋 結 香    |
|            |         | 佐々木 将 志    |
|            |         | 成 田 こな美    |
|            | 臨 時     | 新 藤 步      |
|            | 臨時(短期)  | 沼 上 和 幸    |
|            | 臨時(短期)  | 阿久津 あかね    |
|            | 広報宣伝総合課 | 課 長        |
| 課長代理       |         | 千 田 佳 央    |
|            |         | 新 野 勇 太    |
| 嘱 託        |         | 太 田 直 哉    |
| 臨時(短期)     |         | 丸 岡 みさき    |
| アグリショップ青森店 | 所 長     | 秋 元 陽 貴    |
|            | 臨時(短期)  | 工 藤 夕 湖    |
|            | 臨時(短期)  | 白 取 怜 香    |

## 営 農 部

|          |         |                |
|----------|---------|----------------|
| 部 長      | 川 村 浩 史 |                |
| 次 長      | 高 橋 哲 也 |                |
| 営農支援課    | 課 長     | 奈良岡 寛 久        |
|          | 課長代理    | 木 立 将 志        |
|          |         | 長谷川 欣 哉        |
|          |         | 中 田 春 日        |
|          | (新採用)   | 吉 田 未 夢        |
|          | 嘱託(再雇用) | 吉 田 裕 一        |
| 営農技術課    | 臨時(短期)  | 田 中 美 耶 子      |
|          | 課 長     | 上 平 章 弘        |
|          | 課長代理    | 山 形 拓          |
|          |         | 長 尾 和 朋        |
|          |         | 宮 塚 暢 子        |
|          |         | 兼 平 莉 里 佳      |
|          |         | 工 藤 亘 晟        |
|          |         | 石 塚 大 城        |
|          | (新採用)   | 山 田 悠 太        |
|          | 嘱託(再雇用) | 岡 山 康 博        |
|          | 嘱託(再雇用) | 泉 谷 勝 明        |
| 土壌分析センター | 所 長     | (上平営農技術課長事務取扱) |
|          | 臨 時     | 田 中 真 紀 子      |
|          | 臨時(短期)  | 常 田 愛          |

## 米穀畜産部

|           |          |           |         |
|-----------|----------|-----------|---------|
| 部 長       | 相 場 仁    |           |         |
| 次 長       | 種 市 雅 彦  |           |         |
| 米穀課       | 課 長      | 北 向 佳 介   |         |
|           | 課長代理     | 今 沙 織     |         |
|           |          | 米 塚 幸 子   |         |
|           |          | 大 橋 綾 子   |         |
|           |          | 大 場 春 樹   |         |
|           |          | 山 形 壮 平   |         |
|           |          | 泉 谷 和 美   |         |
|           |          | 黒 滝 京     |         |
|           | (新採用)    | 外 川 太 陽   |         |
|           | 嘱 託      | 横 山 美 智 子 |         |
|           | 嘱 託      | 奥 本 瑠 美   |         |
|           | 嘱託(再雇用)  | 白 戸 康 浩   |         |
|           | 嘱託(再雇用)  | 木 村 伸 夫   |         |
|           | 臨 時      | 風 晴 清 政   |         |
| 米穀販売事務所   | 所 長      | 増 田 勝 秋   |         |
|           |          | 松 田 秀 平   |         |
|           | 大阪駐在     | 太 田 健 朗   |         |
| パルライス販売課  | 課 長      | 村 田 武 志   |         |
|           | 課長代理     | 森 伸 治     |         |
|           |          | 石 田 隆 徳   |         |
|           |          | 薬師神 竜 広   |         |
|           |          | 石 川 達 也   |         |
|           |          | 越 田 茂 輝   |         |
|           |          | 平 澤 亜 美   |         |
|           | 嘱 託      | 大 杉 梨 加 子 |         |
|           | 嘱託(再雇用)  | 前 田 哲     |         |
|           | 所 長      | 齊 藤 仁 志   |         |
|           |          | 山 中 大 資   |         |
|           | 嘱託(受入出向) | 泉 田 寿 徳   |         |
|           | 嘱 託      | 大 瀬 寛 士   |         |
|           | 嘱託(再雇用)  | 奈 良 学     |         |
| パルライスセンター | 嘱託(再雇用)  | 倉 内 恒 明   |         |
|           | 臨 時      | 齋 藤 浩     |         |
|           | 臨 時      | 野 呂 順 一   |         |
|           | 臨 時      | 阿 部 佳 幸   |         |
|           | 臨 時      | 横 内 寛 紀   |         |
|           | 臨時(短期)   | 有 馬 佑 太   |         |
|           | 畜産酪農課    | 課 長       | 七 戸 貴 資 |
|           |          | 課長代理      | 渡 邊 壘 人 |
|           |          |           | 今 村 卓 嗣 |
|           |          |           | 川 村 光 博 |
| (新採用)     |          | 花 田 陽 菜   |         |
| 嘱 託       |          | 深 堀 真 紀 子 |         |
| 畜産事業センター  | 臨時(短期)   | 鈴 木 沙 代 子 |         |
|           | 所 長      | 山 崎 隆 行   |         |
|           |          | 駒 井 博 史   |         |
|           |          | 枋 木 清 光   |         |
|           |          | 織 笠 豊     |         |
|           | 臨時(再雇用)  | 加 賀 久 美 子 |         |
| 牛乳冷却処理所   | 所 長      | 岩 崎 崇 仁   |         |
|           |          | 高 清 水 祐 一 |         |



| りんご部 |         |       |  |
|------|---------|-------|--|
| 部長   | 福嶋 静    |       |  |
| りんご課 | 課長      | 西口 康朗 |  |
|      | 課長代理    | 成田 誠  |  |
|      |         | 山内 大輔 |  |
|      |         | 石井 裕貴 |  |
|      |         | 竹村 歩己 |  |
|      |         | 小嶋 綜志 |  |
|      | (新採用)   | 工藤 樹  |  |
|      | 嘱託      | 石澤 早希 |  |
|      | 嘱託(再雇用) | 伊藤 千尋 |  |

| やさい部         |         |           |  |
|--------------|---------|-----------|--|
| 部長           | 平山 智樹   |           |  |
| やさい花き課       | 課長      | 平 館 慶 徳   |  |
|              | 課長代理    | 山 形 雅 一   |  |
|              |         | 成 田 淳 子   |  |
|              |         | 相 馬 洋 一   |  |
|              |         | 紙 谷 咲 彩   |  |
|              |         | 佐 藤 混 士   |  |
|              |         | 工 藤 康 晴   |  |
|              | (新採用)   | 渡 辺 恋 匠   |  |
|              | 嘱託(再雇用) | 石 川 浩 人   |  |
|              | 臨時      | 福 士 愛 美   |  |
| やさいパッケージセンター | 所長      | 岩 淵 弘 安   |  |
|              |         | 畑 山 俊 一   |  |
|              |         | 前 田 晃 良   |  |
|              |         | 苦 米 地 勇 誠 |  |
|              |         | 澤 田 勇 生   |  |
|              |         | 今 野 由 彩   |  |
|              | 臨時      | 松 村 沙 織   |  |
|              | 臨時      | 野 月 仁 光 子 |  |

| りんご部・やさい部  |          |         |         |
|------------|----------|---------|---------|
| 物流対策課      | 課長       | 乙 部 高 雄 |         |
|            | 嘱託 課長代理  | 滝 本 豪 樹 |         |
|            | 嘱託(受入出向) | 佐 藤 永 生 |         |
| 東京青果販売事務所  | 事務所長     | 木 村 一 彦 |         |
|            |          | 加 藤 優 和 |         |
|            |          | 安 田 真 悟 |         |
|            |          | 葛 西 逸 平 |         |
|            | 臨時(短期)   | 中 村 舞 子 |         |
| 名古屋青果販売事務所 | 事務所長     | 亀 田 智 久 |         |
|            |          | 柳 町 周   |         |
|            | 臨時       | 浅 野 ひろみ |         |
| 大阪青果販売事務所  | 事務所長     | 竹 達 広 治 |         |
|            |          | 梅 村 佳 子 |         |
|            |          | 織 笠 光 平 |         |
|            | 臨時       | 浜 野 千 恵 |         |
|            | 福岡駐在     |         | 向 井 勝 美 |
| 臨時(短期)     |          | 松 井 七 夕 |         |

| 購 買 部    |            |           |                    |  |
|----------|------------|-----------|--------------------|--|
| 部長       | 小田桐 聡      |           |                    |  |
| 次長       | 藤 田 匡 臣    |           |                    |  |
| 購買総合課    | 課長         | 成 田 巨 樹   |                    |  |
|          | 課長代理       | 中 谷 五 美   |                    |  |
|          |            | 岡 村 達 也   |                    |  |
|          |            | 鶴 谷 真 央   |                    |  |
|          | (新採用)      | 工 藤 理 久   |                    |  |
|          | 臨時         | 齊 藤 美 樹 子 |                    |  |
|          | 臨時(短期)     | 横 内 和 歌 子 |                    |  |
|          | 臨時(短期)     | 室 谷 莉 音   |                    |  |
|          | 津軽葬祭センター   | 所長        | 中 谷 貴 昌            |  |
|          | やすらぎホールつがる | 所長        | (中谷津軽葬祭センター所長事務取扱) |  |
| 県南葬祭センター | 所長         | 田 中 嗣 巳   |                    |  |

|              |         |           |  |
|--------------|---------|-----------|--|
| 肥料農薬推進課      | 課長      | 八 戸 俊 輔   |  |
|              | 課長代理    | 金 澤 展 嗣   |  |
|              |         | 宮 本 昌 浩   |  |
|              |         | 今 裕 也     |  |
|              |         | 中 川 洋 平   |  |
|              |         | 工 藤 永 真   |  |
|              |         | 盛 陽 祐     |  |
|              |         | 佐々木 隼     |  |
|              |         | 石ヶ森 海斗    |  |
|              |         | 赤 石 健 太 郎 |  |
|              | 嘱託      | 佐 藤 彩     |  |
|              | 臨時      | 岩 下 愛     |  |
|              | 臨時      | 北 山 み か   |  |
|              | 臨時      | 宮 腰 陽 子   |  |
|              | 臨時      | 岡 田 大 佑   |  |
| 八戸駐在         |         |           |  |
| 三八地域資材配送センター | 所長      | 高 橋 次 郎   |  |
|              | 臨時      | 熊 野 忠 志   |  |
|              | 臨時      | 工 藤 弘 貢   |  |
|              | 課長      | 大 柴 文 孝   |  |
|              | 課長代理    | 石 塚 照 崇   |  |
| 農機農業資材課      |         | 松 江 佳 博   |  |
|              |         | 大久保 義 男   |  |
|              |         | 和 嶋 靖 晃   |  |
|              |         | 小 枝 祐 斗   |  |
|              | (新採用)   | 小笠原 梨乃華   |  |
|              | 嘱託      | 横 山 由 果   |  |
|              | 嘱託(再雇用) | 長 尾 浩 誠   |  |
|              | 臨時(短期)  | 柴 田 恵 子   |  |
|              | 臨時(短期)  | 小田桐 泰     |  |
|              | 八戸駐在    |           |  |

| 本 所                           |        |           |  |
|-------------------------------|--------|-----------|--|
| 施設農住部東北広域施設事業所<br>(青森施設事務所)   | 所長     | 齋 藤 憲 史   |  |
|                               | 臨時     | 笠 井 洋 介   |  |
|                               | 課長     | 木 村 成 子   |  |
| 総合エネルギー部<br>東北エネルギー事業所(青森推進課) | 課長代理   | 岩 田 哲 欣   |  |
|                               |        | 前 田 康 宏   |  |
|                               |        | 杉 田 拓 哉   |  |
|                               |        | 武 井 将 太 郎 |  |
|                               |        | 高 橋 一 希   |  |
|                               | 嘱託     | 工 藤 絵 里   |  |
|                               | 臨時     | 藤 島 祥 子   |  |
|                               | 臨時(短期) | 角 田 望 美   |  |

| 出 向                 |         |           |  |
|---------------------|---------|-----------|--|
| J A 青森中央会総務企画部      |         | 工 藤 里 佳   |  |
| J A 青森中央会農業対策部      |         | 須 藤 雅 樹   |  |
| 青森県産米需要拡大推進本部       | 嘱託(再雇用) | 関 谷 龍 一   |  |
| (公社) 青森県農産物改良協会     |         | 泉 谷 慶 志   |  |
| (一社) 津軽中央共同倉庫       |         | 三 湯 謙     |  |
| 王子製袋(株)             | 臨時      | 佐 藤 仁 勝   |  |
| 昭和ボックス(株)           | 嘱託(再雇用) | 白 川 巧     |  |
| (公社) 青森県青果物価格安定基金協会 |         | 高 橋 良 豪   |  |
| (一社) 上十三広域農業振興会     |         | 工 藤 彩 子   |  |
| J A 全農くみあい飼料(株)     |         | 佐々木 正 至   |  |
| 東北生乳販売農業協同組合連合会     |         | 長 内 敏 也   |  |
| 青森県牛乳普及協会           | 嘱託      | 福 士 文 浩   |  |
| 片倉コープアグリ(株)         | 嘱託(再雇用) | 齋 藤 幸 樹   |  |
| 小野田化学工業(株)          | 嘱託(再雇用) | 唐 牛 由 美 子 |  |
| クミアイ化学工業(株)         | 嘱託(再雇用) | 福 士 学     |  |
| 北東北スカイテック(株)        |         | 岡 元 る み 子 |  |
| J A 三井リース(株)        |         | 下 山 真 治   |  |
| 青森三八五流通(株)          |         | 泉 谷 剛     |  |
|                     |         | 三 浦 強     |  |
|                     |         | 佐々木 浩 蔵   |  |

## LA育成者研修会（臨時）の開催

JA共済連青森は2月26日、ホテル青森（青森市）にて、他県の先進取組事例や育成ノウハウの共有により、LA育成者に必要なスキルの習得・向上を図り、令和8年度スタートダッシュにつなげる事を目的にLA育成者研修会を臨時開催した。研修会には県内各JAからLA管理者、LAトレーナーなど16名が参加。

研修会の前半はJAむなかた（福岡県）の力丸恵子信用共済担当常務による講演、同JA金融部推進企画課長の長濱崇通氏による「LA育成等について」と題し自身の体験にもとづく講演による取組事例紹介を行い、LA育成者として大事なことは「LAに寄り添って、熱意をもって接すること」との想いをもとに、自ら行動する事の重要性を伝えていた。



▲講演するJAむなかたの力丸恵子常務



▲講演するJAむなかたの長濱崇通さん

研修会後半では、参加したLA育成者同士で交流を深めながら、講演で確認した内容を掘り下げながらグループごとに意見交換を行った。参加者は自身の経験やLA活動の育成手法にかかる情報共有を図り、積極的に交流している様子が伺えた。



▲意見交換をする様子

### 行事（4/10～5/10）

#### 4月

- 8～10日 J-WAYS基本編・活動編研修会<新任LA>（県農協会館）
- 10日 運営委員会（県農協会館）
- 13日 Lablet's 操作研修会<新任LA>（県農協会館）
- 16日 LA管理者・育成者デジタル活用研修会（県農協会館）
- 17日 自動車共済事故受付・現場急行研修会（県農協会館）
- 20～22日 J-WAYS基本編・活動編研修会<新任スマサポ・推進担当者>（県農協会館）
- 22日 Lablet's 操作研修会<新任スマサポ・推進担当者>（県農協会館）
- 23～24日 共済基礎知識研修会（契約事務コース）（オンライン）
- 28日 安心サポーター任命時研修会（県農協会館）

#### 5月

- 8日 推進資材担当管理者・担当者研修会（オンライン）
- 11日 運営委員会（県農協会館）

# 令和8年度 職員配置一覽

<令和8年4月1日付>

本部長 葛西真司

副本部長 福田光明

## 管理部

|              |   |
|--------------|---|
| 部長           | 工藤 学  |
| 次長           | 矢野 慶明 (総務人事課長兼務)<br>松林 直輝 (見習い)             |
| <b>企画管理課</b> |   |
| 課長           | 倉本 一仁<br>三上 幸代<br>菊池 まき子 (嘱託)               |
| <b>総務人事課</b> |   |
|              | 三浦 友美<br>坂井 貴子<br>佐藤 光祥 (嘱託)<br>福井 美奈未 (嘱託) |

## 事業推進部

|              |   |
|--------------|---|
| 部長           | 相坂 康人                                     |
| 次長           | 田中 学                                      |
| <b>推進企画課</b> |   |
| 課長           | 櫛引 大介<br>細川 聖司<br>大水 伸彦<br>高松 珠美<br>渡辺 理王 |
| <b>推進支援課</b> |   |
| 津軽地区担当       |   |
| 課長           | 工藤 修<br>村川 真悠<br>館田 卓磨<br>櫛引 星希           |
| 県南地区担当       |   |
| 課長           | 中野 雅寿<br>小湊 祥太郎<br>松本 詩音乃<br>清水 七恵 (嘱託)   |
| <b>関連事業課</b> |   |
| 課長           | 森本 正宝<br>水嶋 誠 (審議役)<br>戸川 真友美<br>藤田 真紀子   |

## 業務部

|              |   |
|--------------|---|
| 部長           | 吉川 勉  |
| <b>業務総合課</b> |   |
| 課長           | 室谷 栄司<br>中野 博人 (審議役)<br>今 陽子<br>佐藤 薫<br>工藤 真由美<br>古川 浩子<br>小倉 倫子 (嘱託) |
| <b>建物査定課</b> |   |
| 課長           | 沼田 邦広<br>千葉 幸喜<br>坂本 一<br>小形 憧<br>佐藤 昂平<br>佐藤 朋子 (嘱託)                 |

## 自動車損害調査部

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 部長                    | 吉井 基郎  |
| 交通事故相談所長 (部長兼務)       |  |
| 交通事故相談所 参与 野崎 真人 (嘱託) |  |
| <b>自動車損調総合課</b>       |  |
| 課長                    | 成田 和智<br>吉崎 麻子 (嘱託)  |
| <b>青森中央自動車損害調査SC</b>  |  |
| SC長                   | 沼山 正幸<br>花井 由美<br>今 拓道 (審議役)<br>升田 昭人 (審議役)<br>中谷 勝 (審議役)<br>岩谷 拓朗<br>安部 龍一<br>鈴木 幸子<br>福井 恵<br>澤田 一雄 (嘱託)<br>平山 暢寿 (嘱託)<br>横山 順子 (嘱託)         |
| <b>弘前自動車損害調査SC</b>    |  |
| SC長                   | 白戸 康弘<br>前原 達明<br>蛭名 茂和<br>相馬 一之<br>工藤 百恵<br>三上 晃 (嘱託)<br>小田桐 清光 (嘱託)<br>鎌田 真那美 (嘱託)<br>山賀 真優美 (嘱託)<br>高橋 康成 (嘱託)                              |
| <b>青森県南自動車損害調査SC</b>  |  |
| SC長                   | 織笠 勝則<br>石岡 一弥<br>工藤 伸行<br>中村 琢也<br>深沢 隆<br>福田 千恵美 (嘱託)<br>阿部 重宣 (嘱託)<br>佐々木 政敏 (嘱託)<br>日野口 かおり (嘱託)<br>星 明廣 (嘱託)<br>長畑 昭子 (嘱託)<br>高橋 希理子 (嘱託) |

## 出向等

|                        |        |
|------------------------|--------|
| (理事長特命) 内部監査役          | 太田 学志  |
| (全国本部東北地区業務センター) センター長 | 七戸 俊文  |
| ( )                    | 工藤 まどか |
| ( )                    | 菊地 雄大  |
| ( )                    | 亀田 朝子  |
| (全国本部本部間研修)            | 工藤 雅士  |
| (管理部付青森県農協中央会出向)       | 長内 克文  |



# あおもり通信

連絡先

農林水産省東北農政局  
青森県拠点地方参事官室  
TEL: 017-775-2151

— 農林水産省からJA関係者へ情報発信 —

## トラクターのシートベルト着用義務化

農耕作業用特殊車の死亡事故は転倒・転落によるものが多く、特に乗用型トラクターの死亡事故が多い状況を受け、道路運送車両の保安基準改正により、乗用型トラクターで道路を走行する際には、シートベルト着用が義務化されることとなりました。

義務化はいつから？

令和9年1月1日 からです

どのトラクターが対象？

令和9年1月1日以降に製造された座席を有するトラクターは、大型特殊自動車・小型特殊自動車に限らず対象車となります

対象のトラクターには、ボンネット側面に座席ベルト着用義務車を示すステッカー\*が貼付されます。



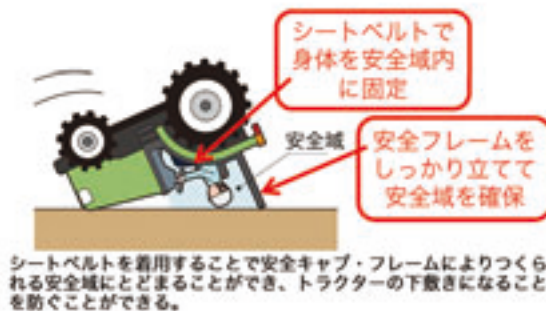
違反した場合は？

シートベルトの着用義務違反として、交通違反の点数1点が付されます

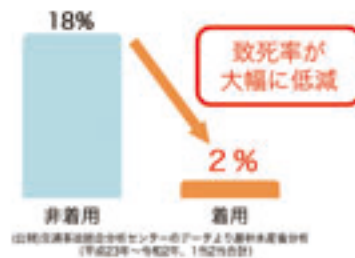
- ✓ 義務化の対象となるトラクター以外でもシートベルトを着用しましょう！
- ✓ 義務化が始まる前に、今から習慣付けをしていきましょう！

### シートベルトの効果

乗用型トラクタの路外逸脱・転倒事故における死亡・重傷リスクに対し、シートベルトを安全キャブ・フレームとセットで使用することが重要！



農耕作業用特殊車における事故時のシートベルト着用状況別致死率



農作業安全対策についてはこちら



# 組織農政通信

## J Aにおける食農教育の取り組み

### 1. 食農教育をめぐる情勢

令和7年4月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画では、食育の推進等が記載され、①学校での食育の強化、②「大人の食育」の推進、③国民の食卓と農業の生産現場の距離を縮める取り組みの拡大、④行動変容に向けた機運の醸成等がポイントとして挙げられました。

また、令和8年4月より、持続可能な食料供給と合理的な価格形成の両立を図ることを目的として、「食料システム法」が全面施行されます。同法では食品の生産から消費までの各団体の関係者が相互に納得のいく価格形成を目指すこととしていますが、そのためには、農業者と消費者との距離を縮める食農教育を同時に進めることが重要となります。

### 2. J Aにおける食農教育

J Aの食農教育は、食と農、地域と自然環境の関わりを重視し、農産物が成長していく過程も大切にしながら、食への関心・興味を高め、食の大切さ、農の役割、地域の食文化、いのちと健康の尊さなどに対する理解を広げ、深めることを目的に実施しています。また、次の世代の組合員や地域住民がJ Aとの関わりを持つことを通じて、J Aに対する帰属意識や愛着を高めること、J A・農業のファンを増やし、食や農に対する国民理解の醸成を目指すことを図っています。

J A全中が実施する全J A調査によると、全国のJ Aの約9割でなんらかの食農教育が実施されています。一方で、その対象者は小学生以下の場合が多く、中学生以上を対象としたものは少ない傾向にあります。コンビニやスーパーマーケット等で調理済みの食品を手軽に入手できる状況下で、その素材となる農産物や「農」に対する関心や興味、理解醸成を図り、国内農業を守るためには、今後、**『全世代型食農教育』**を進めることがポイントとなります。

以下に、対象となる世代ごとのアプローチの例を記載します。

### 3. 主な世代ごとのアプローチ例

#### (1) 学生

- ・過去にアグリスクールに参加した学生を対象に「同窓会」を開催するなど、継続的にJ Aに訪れる機会を増やし、関係性構築のきっかけを作る
- ・J A管内の高校生・大学生と連携し、学生が主体的に食農教育のプログラムを企画・運営することを通じ、将来の進路選択やキャリア形成を考える中に「農業」を入れてもらう（就農またはJ Aへの就職を意識してもらう取り組み）
- ・地元大学生を対象としたアグリスクールの開催
- ・大学祭と連携したPRブースの出店

#### (2) 子育て世代

- ・子どもへの食農教育は、「親子で参加」にする
- ・子どもの農業体験活動時間中に保護者対象の講座を開催するなど、農業やJ Aを知ってもらう（家庭菜園教室、金融教室、J Aの施設見学など）

#### (3) 子育て後、定年期・老後の世代

- ・料理教室、農業塾、市民農園、体験型農園などの案内をし、自身で栽培したものを食べることや土に触れて作業することの楽しさを味わってもらう
- ・農業塾を通じて、作業支援やアドバイスをを行うことで、青年・女性組織への加入や直売所出荷への誘導を図る
- ・デイサービスセンターの敷地内で利用者とともに野菜づくりや花壇づくりを行うことで、農業を通じた健康増進や認知症予防に貢献する

### 4. 最後に

食農教育はJ A・組合員が主体となり、さまざまな分野の職員が活動に関わることで、地域の農畜産物に対する知識の向上や、参加者との交流により組合員・地域住民と親しくなることが期待される面もあり、職員教育の一環にも、職員のエンゲージメントの向上にもつながることも期待できます。

本会は、令和8年度もJ Aが行う食農教育の意義とメリットの周知、収穫体験ツアーやイベントを通じて理解醸成活動の支援を通じて、全世代型食農教育の浸透を図っていきます。

(中央会 農業対策部)

# 経営の窓口

## 財務リスクに関するモニタリングの重要性について

### 1. はじめに

令和6年12月開催の第30回J A青森県大会において、「組織・経営基盤の強化」における重点目標の一つとして、令和7年度からの3年間において内部統制の強化（J A版3線モデルの実効性向上）に取り組むことを決議した。

これに取り組むにあたり、令和7年度はリスク管理基本方針、リスク管理規程を設定するなど体制面の整備に取り組んだ。令和8年度からは、これまでも取り組んでいるリスク情報戦略を強化するために、リスク管理規程に基づいた取り組みを行うことになるが、同規程で定義する4つのリスクのうち、経営に大きな影響を与える財務リスクに関するモニタリングについて紹介したい。

### 2. 4つのリスク

#### (1) 財務リスク

市場リスク、流動性リスク、資金繰りリスク、自己資本比率低下リスク、減損リスク、投資リスク、信用リスクなどであり、資金調達や運用を行う過程で損失を被ったり経営が立ち行かなくなったりする可能性を指す。

#### (2) オペレーショナルリスク

人的リスク、事務リスク、不祥事リスク、苦情対応リスク、マネロン対応リスク、反社対応リスク、システムリスクなどであり、日々の業務運営の中で、ミスやトラブルによって損失を被るリスクを指す。

#### (3) 戦略リスク

法務リスク、事業戦略リスクなどであり、コンプライアンス違反や事業目標を達成できなくなるリスクを指す。

#### (4) ハザードリスク

災害リスク、風評リスクなどであり、自然災害、事故、事件などの外部要因によって、一方的に損害だけが発生するリスクを指す。

### 3. 財務リスクに関するモニタリングの重要性

系統金融機関向けの総合的な監督指針では、自己資本比率が4%を下回り、監督行政による「早期是正措置」が発動される前に、健全性の維持・向上に向けた早期の経営改善を促すため、都道府県による早期警戒制度を規定している。早期警戒制度では、持続可能な収益性・将来にわたる健全性に着目しており、収益性の低いJ Aに対しては行政措置として、業務改善命令までの発出が行われる可能性がある。

このため、自己資本比率とともに収益性低下によって重要視される固定資産減損リスクについても、モニタリングによる経営判断が問われるものであり、減損損失の程度によっては次のような影響が考えられる。

### 4. 減損損失計上による影響

(1) 多額の減損損失を計上し、利益剰余金（利益準備金、各種積立金等）の取り崩しでも足りない場合、当期首繰越損失金、当期末処理損失金を相当期間計上する可能性がある。

(2) 多額の減損損失を発生させ回復すべからざる損害が生じた場合、組員代表訴訟を提起される可能性もあるが、その際も裁判では「経営判断の原則」が優先されるものと思われる。そのため、①判断に必要な情報を十分に収集し、分析していたか、②収集した事実に基づき、企業経営者として通常

考えられる合理的なプロセスを経て判断したかが争点となる。

- (3) 上記により自己資本比率が大幅に低下し、J Aグループの自主ルールである8%を切った場合、要改善J A（経営点検基準）等の指定を受ける。その場合、経営改善計画の策定・進捗管理、資金運用制限等により様々な制約を受けることとなる。
- (4) 資産グループにおいて、2期連続赤字により減損損失を計上したが、その後も慢性的な赤字を計上し続ける場合、当該グループに導入する固定資産は導入した期に減損損失（土地、建物等で時価がある場合は時価まで減損処理）を計上しなければならない。

## 5. 減損損失を発生させないためのモニタリング例

- (1) 減損リスクのような重要なリスクについては、最終的に理事会でのモニタリングが基本となる。
- (2) 現在も各事業ごとの事業実績管理は定期的（四半期毎など）に行われており、計画対比、前年対比などの要因分析等を行いながら決算見通しの正確性をモニタリングしている。しかし、固定資産減損会計では、部門別損益の考え方を基本としており、共通管理費（本店費用等）配賦後の事業利益がプラスかどうかで減損の兆候を判断するため、上記実績検討における各事業の総利益がプラス、または計画を達成したとしても、減損上の資産グループ単位でみれば事業総利益等が一定の基準で配賦されるため、赤字のグループが発生する場合がある。
- (3) 仮に赤字のグループが発生した場合、黒字にするためにはどの事業の事業総利益を増加させる必要があるのかなど、事業間が連携し赤字回避策を検討しなければならない。
- (4) このため、減損リスクのモニタリングにおいては、資産グループごと、共通管理費配賦後の「減損兆候判定表」（期末見通し）を使用する。
- (5) 当期のモニタリングにおいて、期末見通しが2期連続赤字になりそうな場合は、残りの期間で早急な対策を実施する必要がある。（収益獲得対策、費用削減対策等）
- (6) 当期で2期連続赤字にはならないものの、翌期で2期連続もしくは度々赤字となる資産グループがある場合は、当該資産グループの将来の運営方法（統廃合、廃止等）についても、モニタリングを通じて協議していく。

## 6. さいごに

リスク管理は外部から求められて行うものではなく、自らが組織・経営基盤強化のために取り組むものであり、それぞれのリスクについての回避策を各会議体において随時協議する態勢を構築、定着させることが、我々J Aグループの課題であると思われる。特に財務リスクにかかるモニタリングには知識と判断が必要になることから、我々連合会も連携のうえ支援していきたい。

(中央会 経営対策部)





J A 青森中央会  
総務企画部

※インタビュー時点。  
令和8年4月からは経営対策部所属です。

たかだ まこと  
高田 真琴 さん

# 輝き

●プロフィール

2025年4月から勤務 青森市出身 25歳

— 働くきっかけは？ —

転職活動中に求人を見つけ、地元である青森に貢献できる仕事であることに魅力を感じ、入会しました。

— 業務内容を教えてください。 —

常務理事の秘書業務、受託会計の出納業務、県 J A 協議会・津軽地区 J A 協議会の起票事務に加え、課内庶務全般を担当しています。

— 働いた感想は？ —

上司や先輩職員の的確な状況判断力と柔軟な対応力に驚きました。ハプニングが起きた際にも、落ち着いて対応されている方が多く、日々学ばせていただいております。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

周囲とのコミュニケーションを大切に、報告・連絡・相談をこまめに行うことを心がけています。また、相手の立場に立って考え、丁寧で誠実な対応をするよう努めています。

— 特技・趣味は？ —

おいしいごはん屋さんやおしゃれなカフェを開拓するのが好きです。青森は特においしいラーメン屋さんが多く、週末はお気に入りのお店を訪れるのが楽しみです。

— あなたが自慢できることは？ —

猫を飼っており、家では猫ファーストの生活を送っています。膝の上に乗られると、しばらく動けず足がしびれることもあります。猫への愛情は誰にも負けません！

— 将来の夢は？ —

目の前の業務に丁寧に向き合いながら、少しずつできることを増やし、周囲に頼ってもらえる存在になりたいです。



作業を手伝い、負担を軽く  
離農を防ぎたい

請負剪定作業を行う部員



J A つがる弘前青年部千年第一支部は部員18人で構成され、部員全員がリンゴ農家として生計を立てている。

同支部は、同 J A が合併した2003年以前より結成されており、地元の若手農家として先輩部員の取組みを継承しながら活動している。

栽培知識向上のための勉強会の開催のほか、同 J A 組合員が注文した肥料を園地や自宅に届ける「肥料運搬」、組合員が持参したリンゴの花から、人工授粉に使用する花粉を採取する「開葯」、冬期間の「請負剪定作業」など、地域に根差した取組みを続けている。

冬の剪定作業は雪の上で行うため、足、腰、首への負担が大きい。農家の高齢化や後継者・担い手不足を理由に剪定作業が困難になっている農業者の離農抑制にと、青年部結成当時から始まり現在も継続している。活動開始前に先輩の助言を得ながら、依頼園主の希望や意見を踏まえた剪定を行うため、園地ごとに剪定の方針を決定し作業を行っている。

部長を務める齊藤雄成さんは「自分たちの取組みによって少しでも離農する農家が減ってくれたらという気持ちで取組んでいる。しかし、後継者不足の影響から部員数も減少傾向にある。部員の仲間づくり活動にも力を入れリンゴ産業を守っていきたい」と力強く話す。

# 新風

JA相馬村

親のリンゴ畑を継ぐ  
技術高め、変化に対応

弘前市大助地区に住む佐藤優希さんは、就農してから1年半の若手農家で、リンゴを3.5畝、水稲を20畝栽培している。

高校卒業後は、iPhoneのライトニングコネクターなどを製造する企業に就職。親からは、「リンゴ園を継がなくても構わない。自分がやりたい仕事をしてもいい」と言われていた。

佐藤さんは、仕事の合間を縫って親の畑作業を手伝おうと思っていたが、シフト制で夜勤もあったため、手伝う時間がなかなか取れなかった。時間が経つにつれ、「リンゴ園を無くすのはもったいない」という気持ちが強くなり、仕事を辞め、父の指導を受けて農業を始めた。

勉強熱心な佐藤さんは、近くにいる父の存在があっても、リンゴ栽培や剪定方法をさらに学びたいと考え、「青年の会」や同級生の勧めで「青年部」にも参加している。

「先輩方の栽培方法や剪定技術を学ぶことで、良い点をどんどん取り入れていきたい」と語る佐藤さん。今後は、現在のリンゴ畑の維持も大事にしつつ、さまざまな知識や技術を吸収し、これからの農業の新しい変化にも柔軟に対応できるようにしたいと意気込んでいる。



父や先輩農家のアドバイスを基に剪定作業をする佐藤さん

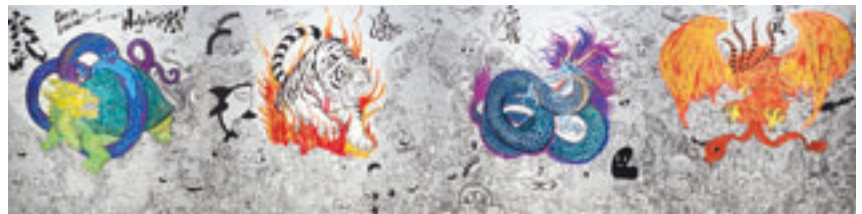
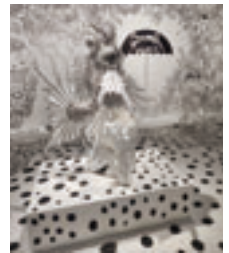
## 後編 記集

徐々に暖かくなってきて、間もなく桜の時期ですね。近年の春はあっという間に過ぎ去り、すぐに暑い夏を迎えてしまう傾向にあり、少しでも心地のよい春が長く続いて欲しいと願うこの頃です。

さて、3月某日、八戸市美術館で開催していた「GOMA展 WONDER 不思議と驚きと奇跡」を鑑賞して来ました。GOMAさんはADHD（注意欠如・多動症）とディスレクシア（発達性読み書き障害）を併せ持つ弘前市出身のアーティストですが、障がいをものともせず才能を開花させており、緻密に見たことがない生き物をエネルギー溢れる色彩で描いています。

世界に活動の幅を広げているGOMAさんですが、再び地元の青森県で展示会を開催する際には、皆さんも鑑賞してみてもいかがでしょうか。

Have a nice April (克)



## ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>  
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

日本農業新聞  
電子版が

アプリでさらに便利に!



日本農業新聞ニュースアプリ

その日の記事を  
すぐにチェック

最新の記事は  
トップに大きく掲  
載されます。読み  
込み速度も速く、  
読みたい記事に  
すぐにアクセスで  
きます。



※画面はイメージです



速報などを  
プッシュ通知で  
お知らせします。



スワイプで移動 /



カテゴリメニュー  
がスワイプで簡単  
に選択できます。

長押し+スライド  
で読みたい順に並  
び替えもできます。



カテゴリ記事に  
簡単アクセス

動画で操作方法など説明

アプリへのログイン方法や特長  
など、詳しい説明をご覧ください  
ます。



アプリをダウンロードする

日本農業新聞公式ウェブサイト  
からダウンロードにお進み  
いただけます。



お問い合わせ

日本農業新聞 電子版事務局  
dkanri@agrnews.co.jp

※ アプリのダウンロードには「Apple ID」または「Googleアカウント」が必要となります。 ※ App StoreはApple Inc.のサービスマークです。 ※ AndroidはGoogle Inc.の登録商標です。



# 家の光

IE no HIKARI

「食と農」「暮らし」「協同」「家族」を柱に  
「人生100年時代」の元気づくりを応援していきます!



読者に寄り添い  
より身近で活用しやすく

お申し込みはお近くのJAへ

| 誌名                  | 定価(税込) ※毎号統一価格 |
|---------------------|----------------|
| 家の光<br>IE no HIKARI | 900円           |

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船原町11 TEL 03-3266-9039 <https://www.ienohikari.net/>